

自己否定への返答における 直接表現とあいまい表現が対人印象に与える影響

木野ゼミ4年 木曾綾音・坂井美桜

問題と目的

【目的】

自己否定への返答における表現の違いが、対人印象に与える影響について検討する。

この際、否定内容の種類と自尊感情を考慮する。

- ・対人印象評価
- ・個人的親しみやすさ
- ・社会的望ましさ
- ・関係評価

〈否定内容の種類(場面設定)〉

変化可能場面	<ul style="list-style-type: none"> ・リップの色が自分に合っていない場面 ・リップはすぐに変えることができないため変化可能
変化不可能場面	<ul style="list-style-type: none"> ・前髪を切りすぎてしまった場面 ・前髪は急に伸ばすことができない

【直接表現】

はっきりと意見を述べること。

【あいまい表現】

遠まわしに意見を伝えること。

「相手から嫌われたくない」といった心理がはたらいている(平川他, 2012)。

【やばい】

本研究で「あいまい表現」として使用。

「危険」といった意味を持つ一方、近年では「最高である」「すごい」という意味でも使われている

【大丈夫】

本研究で「あいまい表現」として使用。

「必要または不必要、可または不可の意味で相手に問いかける」

方法

【調査対象者】

宮城学院女子大学の学生122名

(回答不備・(4)「似合う」と回答したものを除く100名を分析)

【質問紙構成】

1. 場面設定を用いた質問

〈仮想場面〉変化可能場面(リップ)

または 変化不可能場面(前髪)を提示

その場面での返答の提示(表現)

①直接表現、②やばい、③大丈夫

〈質問項目〉①～③の返答に対して、以下の質問

- (1)印象評価尺度(林, 1978)16項目, SD法で5段階
- (2)関係評価尺度(阿部・高木, 2006)8項目, 5件法
- (3)②③に対してそれぞれ「似合う」「似合わない」どちらの意味で受け取ったか

2. 自尊感情尺度(山本他, 1982)10項目, 5件法

【仮想場面】

あなたは朝、登校の際、バスを待っているときに、友人に話かけられました。(友人: あいさつ程度の友人)

〈会話の提示〉

友人: 「おはよー！一限眠いね〜。」

あなた: 「おはよー。そうだね、めっちゃねむい」

友人: 「昨日推しの番組みていたから寝不足だよ〜。

あれ、なんか雰囲気変わった？」

あなた: 「そう、気付いた？」

リップを新しくしたんだけど、しっかりこないんだよね。

(昨日、前髪切ったけど、失敗しちゃった。)

友人: ①「その色は浮いてるね。(ちょっと切りすぎちゃったね。)」

②「やばいね」

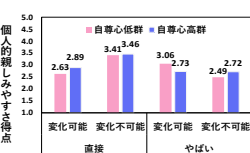
③「大丈夫」

※①～③は順に入れ替えて提示

※大丈夫について: (4)で「似合わない」と捉えた人がごく少数であったため分析から除外

結果と考察

【個人的親しみやすさ】



表現条件:

「直接」>「やばい」

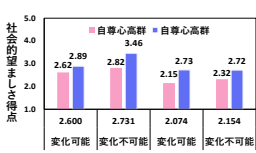
直接表現されたとき

「変化不可能」>「可能」

すぐに対応できないとき

「直接」>「やばい」

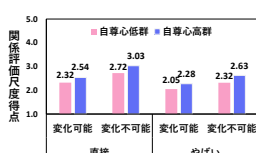
【社会的望ましさ】



表現条件:

「直接」>「やばい」

【関係評価】



表現条件:

「直接」>「やばい」

場面:

「変化不可能」>「可能」

自尊感情:

高群>低群

【考察】

- ・個人的親しみやすさでは、変化不可能場面での「直接」の値が高いことから、変えられないからこそ、似合っていないことを直接伝えてもらうことが親しみやすさにつながったのではないかと考える。
- ・社会的望ましさでは、平均値が3を超えたものはひとつのみであり否定的な返答を伝えることに対しては感じにくいと考える。

- ・関係評価では、「直接」伝えたほうが関係を続けたいと考える。相手が「あいさつ程度の友人」と設定されていたことからあいまいな伝え方では真意が読み取れず相手への評価が下がったのではないかと考える。